

JRE被災度判定支援システム「Gragram」、 2025年3月27日にまちびらきした TAKANAWA GATEWAY CITYに採用

白山工業とJR東日本建築設計が共同開発

白山工業株式会社(本社:東京都府中市、代表取締役社長:吉田稔 <https://www.hakusan.co.jp/>)と株式会社JR東日本建築設計(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:伊藤喜彦 <https://www.jred.co.jp/>)にて共同開発したJRE被災度判定支援システムGragram[※]が、2025年3月27日にまちびらきしたTAKANAWA GATEWAY CITYのTHE LINKPILLAR 1に採用されました。

JRE被災度判定支援システムGragramは、TAKANAWA GATEWAY CITYのまちづくりを推進する品川開発プロジェクト(第I期)設計共同企業体の代表であるJR東日本建築設計と、数多くの被災度判定システムを提供してきた白山工業が共同開発したシステムです。

白山工業とJR東日本建築設計は、本システムの提供を通じて、TAKANAWA GATEWAY CITYのコンセプトである「100年先の心豊かなくらしのための実験場」の安全・安心を支えてまいります。

※Gragramは白山工業株式会社と株式会社JR東日本建築設計の登録商標です。



写真提供: 東日本旅客鉄道株式会社

THE LINKPILLAR 1外観

JRE被災度判定支援システム「Gragram」

JRE被災度判定支援システムGragramでは、建物内部に複数の測定機器を配置することで、地震発生時に避難指示や建物の継続使用の判断をサポートする情報を表示します。システムに構造技術者の知見を取り入れることで、建物ごとの特性を加味し、被災度を適切に判定。建物の生命線とも言える構造体だけでなく、外装材・天井材・設備機器・家具といった非構造部材や設備・什器等の被災状況の判定をサポートします。

JRE被災度判定支援システム「Gragram」紹介ページ <https://www.hakusan.co.jp/solution/bosai/collaboration/Gragram/>

システムイメージ

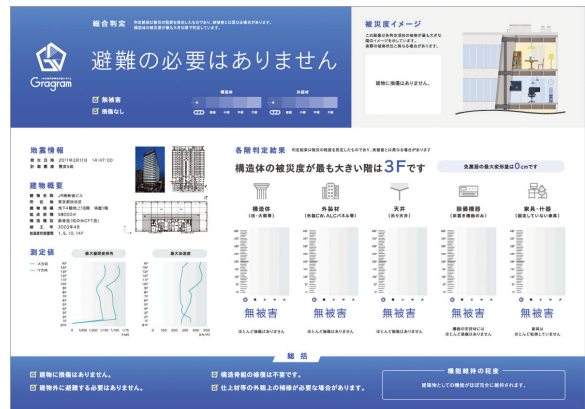
■ 即時判定ブラウズ

地震直後には「即時判定ブラウズ」を表示して、避難指示の要否や非構造部材を含む5つの項目（構造体、外装材、天井、設備機器、家具の転倒）の被災度を建物全ての階で判定します。また、ランクごとに色分けされた画面や、被災度イメージ図により一目で建物の損傷状態を把握できます。



■ 診断レポート

地震発生後に自動的に詳細なコメント付きの「診断レポート」を作成します。建物のBCP計画に合わせて、防災拠点としての利用可否、建物の継続使用の可否についての情報を適切に提供します。



白山工業株式会社

当社は、長年に渡り(国研)防災科学技術研究所が運営する地震観測網や大学が運営する火山観測システムへ機器やシステムを供給しています。2011年に提供開始した建物の構造の被害を推定する被災度判定支援システム「VissQシリーズ」は400棟以上の導入実績を誇り、多くのお客様にご利用いただいています。2020年にはLTE通信内蔵の小型地震計とクラウドサービスで構成される「IoT地震観測サービス」の提供を開始。2023年時点で1,000台以上の地震計を出荷し、製造業・物流施設・インフラ施設を中心に幅広い業界で活用されています。

白山工業は、パートナーの皆様との連携を深めながら、先端技術と地震計測技術の融合により、世界の地震防災に貢献します。“HAKUSANの「技術」で、たくさん の「安心」を”これが当社のミッションです。

株式会社JR東日本建築設計

JR東日本建築設計(JRE設計)は、鉄道関連施設、駅周辺開発、駅を中心としたまちづくりを得意とし、首都圏のターミナル駅から地方の駅にいたるまで、自治体や他の事業者とも連携し、周辺地域と調和した開発や新しい暮らしの提案を手掛ける組織設計事務所です。ICT活用や環境配慮設計に関する技術の蓄積、新領域の開拓など、JRE設計はあらゆるフィールドに挑戦しています。

ニュースリリースのお問い合わせ

白山工業株式会社 [防災営業部] 岩崎、郡(ごおり)、吉田 信(まこと) [プロモーショングループ] 小嶋
Tel.042-333-0080 / Fax.042-333-0096 / Email eigyo@hakusan.co.jp